

JRC2010 市民公開講座 『前立腺がん—早期発見からやさしい治療まで—』



藤澤 正人 (ふじさわ まさと)

神戸大学医学部附属病院 腎泌尿器科 教授

講演内容「前立腺がんの基礎知識」

前立腺がんは、高齢男性に多く、進行が比較的緩徐で、早期なら根治が可能です。スクリーニング検査は、PSA 検査と直腸診で、PSA 値などで疑いがあれば、前立腺から組織を採取する生検で確定診断を行います。画像検査により進行度を判断し、それに応じた治療法を選択します。一般的に前立腺に限局している場合は、手術療法または放射線療法による根治療法を行います。転移を有する進行性の場合は、ホルモン療法を行いますが、その効果がなくなった場合は、抗がん剤などの薬物療法に変更します。治療を受ける前に病気の進行度と各治療法の長所・短所を十分理解しておくことが大切です。今回は、前立腺がんについて知っておくと役立つ基礎知識についてお話ししたいと思います。



高橋 哲 (たかはし さとる)

神戸大学医学部附属病院 放射線科 講師

講演内容「前立腺がん 痛くない見つけ方」

前立腺がんには PSA とよばれる有用な指標があり、採血により「がん」の存在を疑うことができます。しかし PSA は前立腺肥大や炎症など「がん」以外の理由でも異常値を示すことがあります。そのため前立腺がんの診断には、前立腺に針を刺して組織を採取して顕微鏡で調べる「生検」と呼ばれる検査による確認が必要で、前立腺をくまなく調べるには多数の場所に針を刺す必要があります。最近の画像診断、特に「MRI 検査」により、前立腺のどの部分に「がん」が疑わしいのか、さらにその悪性の程度まで、あらかじめ予想が立てられるようになってきました。この講演では「がん」をより痛くなく見つけ、治療の方針をたてるために役立つ、最近の画像診断の進歩についてご紹介したいと思います。



平塚 純一 (ひらつか じゅんいち)

川崎医科大学附属病院 放射線科 教授

講演内容「前立腺がん 新しい放射線治療」

前立腺癌に対する根治的治療としてこれまで前立腺手術が唯一の標準治療と考えられてきました。しかし、最近の放射線治療支援機器の進歩により、周辺正常組織への線量を減らし、前立腺病巣に比較的大線量を照射することが可能になっています。すなわち画像情報を用いた高精度放射線治療技術であります。その一つが小線源を用いた「組織内照射治療」です。組織内照射の最大の特徴は、標的に合わせた線量分布が得られ、臓器固有の動きに対応できることです。今回の市民講座では、イリジウム 192 を用いた高線量率組織内照射治療について述べます。また、現在治療法の選択に苦慮されている方に参考となる「どのような選択基準で選べばよいか」についても述べる予定です。

お申込みについて

必要事項をファックスでお送り下さい。 **FAX : 03 - 3518 - 6139** (日本ラジオロジー協会)

氏名					性別	男 <input type="checkbox"/>	女 <input type="checkbox"/>
年齢	30代 <input type="checkbox"/>	40代 <input type="checkbox"/>	50代 <input type="checkbox"/>	60代 <input type="checkbox"/>	70代 <input type="checkbox"/>		
ご質問							

※講演終了後に、質疑応答の時間を予定しています。あらかじめ質問を受け付けます。時間の都合上、すべての質問にお答えできない場合がございますがご了承ください。